

■ 生業の継続による景観の維持

- ・ 条件不利地への基盤整備に加えて、茶援隊（近隣茶農家、ボランティア）の育成

- ・ 技術の伝承とイノベーションをいっしょに拠点化する

想定されるのは、茶業研究所あるいは、茶協同組合の既存施設の活用により、宇治茶の品質を裏打ちする技術内容やその発明者（社）の発信と、新たな技術開発、特に充実した利用加工部門との一体的な拠点整備

※研修制度について

農林水産技術センターで統一的に研修制度を整備している。任意の期間（数ヶ月）などの事例があるが、茶業研究所では、年度くぎりで実習、講義の実績がある。それは、大正15年？に茶業研究所が創設された頃からの人材育成機能が、現代においても重要であるからであり、茶農家だけでなく、茶問屋の後継者も受け入れている。（これが、茶の農商エネットワーク形成の所以）

※宇治茶経営者アカデミークラブ

家族経営を如何に脱するかが課題経営拡大のハードルと思います。規模拡大、6次化で通年雇用して販売額を増やせるかどうか。そのリスクを受容できる仕組みが必要と思います。いずれにしろ、コメといっしょで市場外流通に活路を見いだす必要があります。

※宇治茶実践学舎

荒廃茶園はどこにあるのかと考えてみると、宇治田原町の街中や加茂町や和束町の山奥かと思います。宇治田原の街中は新規参入者で再生させられるのですが、山奥の茶園は無理だと思います。法人経営の雇用創出のため育成する方向はあると思います。

- ・ 輸出に対応した特別栽培のお茶づくり

残留農薬基準のクリアーは必須ですが、産地で流行やっている、和製紅茶は本物と比べると難しいと思います。

藤井